令和6年(2024年)7月12日

令和6年度 全国高等学校総合体育大会「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体 2024」
長野県選手団結団式 団長あいさつ

皆様こんにちは。長野県選手団団長を務めます長野県高等学校体育連盟会長の武居正憲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度 全国高等学校総合体育大会「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体 2024」長野県選手団結団式にあたり、長野県教育委員会教育長 武田 育夫 様、保健厚生課教育主幹兼学校体育係長 出口 哲朗 様、保健厚生課学校体育係指導主事 北村 洋章 様のご臨席を賜り、また、多くの出場選手・指導者の皆さんにご出席いただいて開催できますこと、主催者を代表して心より感謝申し上げます。

広い長野県の各地から、ひとつの会場にご参集いただくことは大変なことですが、選手の皆さんには、この結団式の意味をご理解いただき、本番に向けて気持ちを高めていただきたいと思います。

さて、選手および指導者の皆さん、北部九州インターハイへの出場おめでとうございます。私から、2つのことをお話し申し上げて挨拶とさせていただきます。

1つ目は、「部活動の意義」についてです。昨今、高校教育は、「教師主導から生徒主体の探究的な学びへ」、「同一学年での学びから学年や学校種を超える学びへ」そして、教え方については「ティーチングからコーチングへ」など、これからの未来を見据えた改革が図られています。

この高校教育改革の方向性から考えた時、既に、部活動は、「選手主体の探究的な学びの場」、「異なる学年や学校が入り混じった学びの場」であり、指導者にとっても「選手とともに悩み、感動を共有することができる」素晴らしい学びの場であるのではないのでしょうか。

とはいえ、選手の皆さんにとって、今までの部活動でのプロセスは決して平坦なものではなく、苦労したこと、あるいは、していることも多いと思います。「ただし、簡単に得たものは瞬間に失われますが、自ら汗をかいて涙を流して乗り越えた壁は、自分を守る盾となって支えてくれます。」主体的に取り組んできたプロセスに自信をもって、インターハイを楽しんでください。

2つ目は、「様々な角度からインターハイを体感してほしい」ということです。

令和元年度の南部九州インターハイに参加した長野県の選手が、大会後に次のようなメッセージを県高体連事務局に寄せてくださいました。

それは、「フィジカルやメンタルなど、新しいスポーツ科学も取り入れてやる必要があるだと強豪校をみて感じました。また、現地で県の選手がまとまって応援し、声を掛け合う姿が見られ、とても良かったと思いました。」というものです。

スポーツには、「する」・「みる」・「支える」そして「知る」という関わり方があることは皆さんご存じのとおりです。したがって、インターハイでは、プレーで勝利を目指し、仲間を応援し、様々な試合や選手を見て、自分の未来につながるものを吸収してください。

そして、これらに加えて、次に申し上げることも体感して欲しいと思います。

インターハイでは、「高校生活動」をとっても大切にしています。皆さんと同年代の開催地の高校生が、「駅や会場で案内をしてくれたり」、「開会式の公開演技をしてくれたり」、「競技の補助員をしてくれたり」、高校生最大のスポーツの祭典を成功させるために「スポーツを支える立場」から企画・準備・運営に携わってくれています。この結団式も、松本蟻ヶ崎高校放送部および松本県ヶ丘高校応援団の皆さんが支えてくれています。

ぜひ、「高校生活動」を知り、その姿からも多くのことを学んで、「ありがとうという感謝の気持ちを強さに変えて」がんばってください。そして、将来は「スポーツを支えることもできる人」になってください。

結びに、今年のスローガンは、「駆け上がれ夢の舞台へ 燃え上がれ若人の魂」です。夢の舞台での主役は「あなた」です。強くなった自分自身に期待して、堂々と若い魂を燃やしてください。

選手、指導者そして支えてくださるすべての皆様に感謝し、挨拶とさせていただきます。

選手の皆さん、夢の舞台で「大いに学び」「堂々とプレー」してください。

長野県高等学校体育連盟 会長 武居 正憲